



絆

KIZUNA

YAMAMOTO INDUSTRIES Co., Ltd.
Company Newsletter

山本産業(株) 社内報

きずな

2021.2.16

Vol.11



1983年入社式
紀三井寺はやしにて



2015年
紀三井寺分工場
OB会



昭和63年2月22日 山本産業株式会社 紀三井寺分工場一同



黒潮クラブにて



紀三井寺分工場
竣工当時

会長との思い出

余寒お見舞い申し上げます

昨年の春以来、コロナ禍で皆さんは大変緊張感をもって「感染しない」「感染させない」心意気で

会社でのお仕事、また日々の家庭生活に取り組んでこられたことと思います。改めて感謝申し上げます。しかし年を明けてもコロナ禍の環境は相も変わりありません。

会社経営においては昨年の1月～12月の累計売上高は対一昨年の95%となり、その影響が出ております。特にセット作業の受注高が大きく減少しました。

経営環境の厳しい中、会社としては誠に悲しい出来事がありました。その出来事とは、かねてより病氣入院中であった山本純敏会長が、昨年10月21日に92歳の生涯を閉じられたことです。コロナ禍の状況から家族葬が執り行なわれました。時期をみて、会長を偲ぶ会、お

別れの会を考えております。

山本会長は60有余年、山本産業株式会社のため、花王様一途のお取手で、社是にある「誠実・信用・信頼」をもって、誠心誠意取り組まれ、現在の規模まで築かれました。改めてそのご功績に敬意を表します。今回の社内報に会長との思い出多い方々のお言葉が掲載されています。私も今から30年前の花王在籍時代にご縁ができ、12年前に一緒に経営する立場にお迎えいただきました。私は会長の従業員に対する心遣いを受け継ぎ、現在のビジョンである「愛と思いやり」に満ちあふれた世界一しあわせな会社の実現に向け、誠心誠意で取り組んでいます。ビジョン達成に向けて中期運営方針として「思いを一つにチャレンジ2030」を昨年7月に

公表しました。その取り組みの一つに人事制度（実績評価、能力評価、賃金）の見直しがあります。やる気を起こせる人事制度を目指しており、現在検討中であります。また会社の成長には、個人・チームの成長が必要条件であり、人財育成、円滑な組織運営に力を注いでまいります。

今年新型コロナウイルスと共存でき、経済活動に活気を戻せる社会になることを祈念しながら、皆さんと一緒にこの危機を乗り越えたいと思っております。ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長

大東 俊晶



2013年(平成25年)6月
花王澤田社長(当時)来社



2010年(平成22年)4月
会長就任を祝う会

山本純敏 会長のあゆみ



山本産業70年余りの歴史の中、故山本純敏は約60年近くにおいて社業発展と従業員の幸せを願い、社長として、また会長として務めてまいりました。

戦後間もない昭和22年、山本化学工場(現山本産業)として産声を上げ、現在の規模にまで発展することができたのも、学生時代のとある出会いがきっかけにあったのです。その出会いというのは、化学研究において花王の沼田様に目をかけていただいた、ということです。

そして昭和26年、花王製品の製造受託が始まりました。その後昭和29年、衣類用洗剤の製造が当社太田工場(当時)で開始されたのです。真っ白になりながら箱に詰め、時には近隣の住民に頭を下げながら築きあげた出会いが、今に至る山本産業発展の礎となった訳です。

しかし60年の間には、度重なる増員要請や赤字の危機など、幾多の困難がありました。これらを乗り越えてこられた根底には、沼田様をはじめ、多くの出会いに恵まれていたからだ、故人は常々申しておりました。こういった人と人との繋がりが、果ては沖縄にまで及び、従業員採用のために足を運んだこともありました。

また、故人は釣りにボウリング、蘭の栽培など趣味も多才でした。負けず嫌いな性格もあってか、そのどれもが一級の腕前を持っていました。その中でも磯釣りが大好きで、特にグレには命を懸けていたと言っても過言ではありません。若くして自ら「和歌山黒潮クラブ」を立ち上げ、日本各地を渡り歩いてきました。そして晩年にはその集大成として、「釣り惚け一代記」を出版するまでに至りました。

こうして仕事も趣味も、なんにでも熱中し、真剣に取り組んできた証しが、会社を発展させてきたことにも繋がっているのだと思います。

故人はこうして皆さまとめぐり会って、本当に幸せな人生を送ってこられたと思います。皆さまの中にある思い出一つひとつを、どうかこれからは大事にしていただければ幸いです。

文：山本純久



山本純敏会長の略歴

- 1928年(昭和3年)
- 1962年(昭和37年)
- 1977年(昭和52年)
- 2004年(平成16年)
- 2010年(平成22年)
- 2020年(令和2年)



花王丸田社長(当時)から表彰



会長と蘭



著書「釣り惚け一代記」(平成16年2月23日発行)

和歌山市に生まれる
代表取締役社長に就任
和歌山黒潮クラブ設立
紀三井寺に本社工場設立
花王石鹼丸田芳郎社長より、
花王協力会社としての功績を
認められ表彰を受ける
「釣り惚け一代記」出版
代表取締役会長に就任
10月21日永眠 享年92

会長との思い出



森口 廣明さん 1980年入社(勤続40年)

エピソード1. 差し入れ

入社1年足らずの寒い夜のこと、ある職場で遅くまで残業をしていた時、急に会長が現場に来られ、「寒い中、遅くまでご苦労さん」と声を掛けてくれました。

会長は、すぐに立ち去ったのですが、しばらくすると、再び現場に戻ってこられ、防寒着のポケットから缶コーヒーを出して、「まあ、これでも飲み」と言って、その缶コーヒーを渡してくれました。

少し冷め気味のコーヒーでしたが、わざわざ缶コーヒーを買いに戻ってくれたんだと思うと、冷えた体と心には深く染み入りました。

エピソード2. 奮起

35、6歳の頃だったでしょうか…異動で旧ハウスホールドの責任者の辞令が出たが、仕事に馴染めず、やる気のない日々を送っていたある日、会長が休憩所に寄り来て、「まあ、頑張れよ」と一言励ましてくれました。

その時は、特に何も感じなかったのですが、数日後の会議の場でやる気のない発表をして、当時の管理職からひどく叱られたことがありました。

その時、会長が「森口は頑張っているから…」とかばってくれました。この一言で僕の気持ちが変わりました。

この時の一言が、今の自分に繋がっていると思っています。



山本 良文さん 1983年入社(勤続37年)

私が入社した頃は、山本会長(当時社長)が会社の送迎バスを運転し、花王工場まで従業員の送り迎えをしてくれていました。パーソナルケアで交替勤務をすることになった時も、慣れない夜勤をする私たちのために、自ら率先して現場のリーダーと持ち回りで夜間巡視をしてくれていました。

アタックの生産が始まり従業員数が一気に増えた頃、紀三井寺工場には男子寮と女子寮があったのですが、警備会社と契約するまでは会長や当時の役員などが寮で宿直をされていました。今と比べると、まだ従業員数も半分くらいでした。

会長は紀三井寺工場(本社)にとっても強い思い出がありました。私の結婚式に出席してもらったご縁で、毎年お中元やお歳暮を会長宅まで持参していたのですが、その度に紀三井寺工場の立ち上げにまつわる苦労話などを聞かせてくれました。私が紀三井寺工場で資材管理をしていた頃は、よく丹波屋のおはぎを買ってきてくれました。一見、気難しそうに見えるけれど、気さくで話しやすい方でした。

会長はボウリングが大好きで、小柄なのに6ゲームを平気で投げっていました。また、社内旅行でいろんなところに連れて行ってもらいました。従業員が増えてからも何とか調整してお盆に行ったりもしました。みんなワイワイするのが好きな方でした。

しかし、安全と品質に関してはとても厳しい面がありました。花王さんには迷惑をかけてはいけない、会社の信用問題になるからとさつく教え込まれました。その教えを守ってきたから会社も大きくなっていったのだと思います。



小林 俊幸さん 1982年入社(勤続38年)

真夏の暑い日、僕もまだ若い頃でしたが暑さに滅入ってしまい「ああ、もう今日は釣り終えたい」と思ったことが何度かありました。しかし会長は、日が暮れてウキが見えなくなるまで、とことん釣りをさせていたのをよく覚えています。そこには「何としても釣り上げてやろう」という強い執念を感じました。おそらく仕事に関しても同じ思いを持って、この山本産業を築き上げて来たのだと思います。

会長とのプライベートでの思い出は、いくつもあります。『麻雀、山へ蘭狩り、釣り、ボウリング』この全てに共通するものがあります。麻雀に勝つ、誰よりも早く蘭を見つける、大きな魚を釣る、ボウリングでハイスコアを出す、等々…、それは『負けず嫌い』。根っからの勝負好きであり、負けるととても悔しがり、勝てば子供のようによびとった状況でした。よってこちらも真剣になっていたことを記憶しています。ボウリングでは、当初はハンデもなく、私たちと真剣に勝負していました。しかし、年齢を増すにつれてハンデを貰いやすくなりました。正直なところ心の中では、悔しい思いを持っていたに違いないと思います。会長のそんな負けず嫌いな性格が、山本産業をここまで発展させたのではないかと考えます。昔は花王さんの下請けで、言われる仕事は全てなんでも受け、会社の業績をアップしていったと思います。そんな会長の精神をいつの間にか、その当時のメンバー達は引継ぎ、また、新しい考えをプラスしながら今日に至っていると思います。今の山本産業は、昔と比較して、随分と様変わりしてきています。仕事のやり方、花王さんとの関係、当社の環境や処遇全般等々…。しかし、紐解けば、昔の会長の精神が、思いが、形を変えて今に至っていると強く思うのは、私だけでしょいか。



山口 幸代さん 1982年入社(勤続38年)

品質クレームをなくすため、よく「ヒヤリハット訓練」をしました。実際に不良品をベルトに流して、その製品を見つけることが出来るかどうか工場内から出さないようにする訓練です。品質にヒヤリを出さないために力を入れていたと思います。それとよくボウリング大会を開催しました。

会長はマイボールを持っているくらい上手でした。その時、会長はみんなのレーンに周ってきて声を掛けてくれました。実際に私も会長にボールの投げ方を教えてもらいました。今でもそれはいい思い出です。

熊倉 信子さん 1978年入社(勤続42年)

会長とは30数年の付き合いで、すごくかわいがっていただきました。入社以来ずっと花王工場での勤務でしたが、紀三井寺に異動したときは、すごく喜んでくれたのをよく覚えています。

会長はきつく言うこともありましたが、みんなのことを思っていて言ってくれているのが、その言葉からよくわかりました。本当に人を思いやる心のある方だと思います。

ボウリングと釣りが好きで、足が悪く、危ないから気をつけてと言っても釣りに出かけて行きました。そんな会長だからこそ、お見舞いに行っても呼びかけても反応がないときはすごく寂しかったです。何度もお話をさせていただき、元気な頃を知っているだけに、病院での辛そうな姿を見るとかわいそうでした。



原島富美子さん 2003年入社(勤続17年)

今から20年以上前、私が和歌山に来た当時住んでいたのが会長の家のすぐ近くにあるマンションでした。休みの日など、会長が家にいらっしゃるときはよく見かけました。

夏にはステテコに会社の帽子をかぶった格好だったのを覚えています。休みの日には昼ごろ小林さんがよく会長の家に来ていました。

仕事ではよく現場に足を運んでくれて声をかけていただいたことを覚えています。ヒヤリハット訓練で大きな声で止めると、とてもうれしそうにしていました。そんな生き生きとした顔を見ていると、セット作業場が好きなんだなと思いました。

従業員を見かけると声をかけたり手で合図したりと、私たちにはとても腰の低い優しい印象でした。

荒木 愛さん 1992年入社(勤続28年)

会長(当時社長)とは面接で初めてお会いしました。その時に「花王製品は何を使っている?」と聞かれ、「ボディーソープ」と答えたり、「石鹸とどう違うの?」と質問されたことを今でも覚えています。

17年くらい前にリーダーをしていた頃、毎週のように現場に来る度にヒヤリハット訓練をしていました。品質には特に厳しかったです。

名前を覚えてくれていました。結婚してからもずっと旧姓の「小川」で呼ばれていました。



チーム紹介 第6グループ歯磨きチームの紹介

歯磨きチームってどんなところ？

第6グループ歯磨きチームでは、クリアクリーンやディープクリーンをはじめとした、歯磨き製品を造っています。このチューブ入り歯磨きは、数ある花王工場の中で唯一、和歌山工場でのみ生産されているのが特徴です。

口に入れる製品を取り扱っているため、異物混入など品質管理には特に気をつけて作業しています。

例えば作業場所での服装一つをとっても、毛髪落下のリスクをなくすため、他の作業場所よりも厳しくなっています。また、作業手順や工程管理のルールについても、一つ一つがキッチリと決められています。

堅苦しく感じるかもしれませんが、初めての作業でもベテラン作業の方が、手順をしっかりと教えてくれるので、安心して作業することができます。



協力、助け合いのある組織運営に向けて

歯磨きチームには機械オペレーターと材料供給者がいます。4人組になっているオペレーターと、生産予定によってシフトが左右される供給者では、お互いの情報交換に課題を感じていました。

例えば、小さくても改善できることがないか、作業をする上でこうした方がいいんじゃないかということがあれば、オペレーターと供給者が一緒に考えることで、歯磨きチームとしての一体感を高めていこうとしています。

「思いを一つにチャレンジ 2030」への取り組み 人事評価制度の見直しについて

2019年3月に実施させていただきました従業員の皆さんへのアンケートの結果、現行の人事評価に対し不満を持っている方が非常に多いことがわかりました。

その結果を受け、会社としては人事評価制度の最適化を目指して人事評価制度の見直しを行っています。

新たな人事評価制度を通じて、従業員の皆さんに「働きがい」を感じていただけますよう、「やる気を起こせる人事制度(実績評価、能力評価、賃金)」と「成長の基準を明確化(役割、職位ランク基準と必要スキル)」をテーマとして、山本産業の人事労務ビジョン(求める社員像、人材育成方針、人事制度基本方針)の作成を行い、今年2月にはトライアル運用を一部のチームで開始、10月からの新制度開始を目指して日々活動に取り組んでおります。又、新人事評価制度は実績の評価を行うだけでなく、それを通じ評価者となるリーダー職の皆さんとメンバーの結びつきを強めることにより、「組織運営の強化」(協力、助け合いのある組織運営)も目標の一つとして推進いたします。



人事制度プロジェクト 末田

新入社員教育について

2020年4月に新入社員11名が入社し、6月から各配属先での業務習得に励んでいます。皆さまにはいつも温かくご指導いただき、ありがとうございます。

新入社員教育については、前年度からメンター制度を取り入れています。

メンター制度とは簡単に言うと、『知識と経験のある先輩(メンター)が、経験の少ない後輩(メンティ)の成長のために支援する制度』です。各配属先ではメンターが中心となってメンバーを巻き込み、メンティに合わせた指導に試行錯誤しながら取り組まれています。メンター制度を通じて『職場全体で人を育てる』という風土を作り上げていきたいと考えています。



永年勤続表彰

永年勤続表彰の皆様、おめでとうございます。
数々のご功績と誠実なご勤務の賜物とお喜び申し上げると共に、
今後共、後進のご指導に一層ご尽力いただけますようお願い申し上げます。



森口 廣明さん

入社して40年を経過することができました。この間、色々な事がありましたが、こうして40年の節目を迎えられたのも社長や周りの皆さんのお陰だと実感しております。今後も感謝の気持ちを忘れず頑張っております。



河本 龍一さん

私は、入社以来、職場では数え切れないほど多くの人達と出会いました。沢山の人達から多くの事を教わり、様々な経験をさせていただきました。これからも人との絆を大切に、新しい出会いと、仕事に頑張っております。



山本 良純さん

私が入社した頃は液や粉塗りの日々でしたが、今では作業環境整備が進み、安全で快適な職場になりました。それは先輩方や花王様と共に、たゆまぬ努力を続けてきた証であると、私は誇りに思っています。



山口 隆浩さん

この度、無事勤続40年を迎えることが出来ました。1980年7月入社以来振り返ると、ハウス家庭店で9年、化学品トナー製造で6年、研究所で13年、TTCで12年勤めさせていただきました。ありがとうございました。

永年勤続
20年

富永美代子さん 松井由紀美さん 中島 利浩さん 奥畑 貴代さん 北村 博文さん 山東 俊文さん
永井 智恵さん 島田 寿人さん 玉置 幸次さん 米田 敏子さん 辻 弥江さん
吉田 卓真さん 奥藤 英雄さん 寺井 友茄さん 吉田 葉子さん 北林 麗さん
小谷 博文さん 谷口真巳子さん 長瀬 恭子さん 田村 昌子さん 尾崎 弘美さん

永年勤続
10年

間藤 万智さん 松原 遼さん 土山久美子さん 久喜 茂さん
大谷 龍司さん 吉田進次郎さん 箱木 徹さん 萩原 美紀さん
岡崎 修次さん 辻本 優子さん 河崎 敏彦さん 山本江美子さん



私たちのオススメ♪

※みなさんからのオススメを募集中！詳しくは編集局まで

YouTubeチャンネル「official IZ*ONE」



【IZ*ONE (아이즈원) 'Panorama' MV】
<https://youtu.be/G8GaQdW2wHc>

IZ*ONE (アイズワン)
『Panorama』

第2グループ 国本江津さん

日韓ガールズグループ「IZ*ONE」の新曲です。
MVもめっちゃカッコイイので、ぜひYouTubeで
チェックしてみてください！
(歌詞は韓国語ですが…)



とんかつ庄フジマル
和歌山市十番丁52 土谷ビル1F
Instagram: tonkatsusou.fujimaru
企画運営グループ 吉岡嘉哉さん

ソースは昔ながらのデミグラスソースと特製
トマトソースの2種類から選べます。おすすめ
はデミグラスソースです！
お持ち帰りメニューも充実しています。



酒のねごろっく
岩出市畑毛49-1

岩出工場 今川奈緒美さん

当社岩出工場のお隣さん、
吉村秀雄商店蔵元直営店
です。搾りたての新酒など季
節のおいしいお酒が味わえ
ます！酒かすを使用したお
菓子などもありますのでお
軽に立ち寄れます。



編集後記

今号は、故山本純敏会長を偲んだ特集記事を掲載しております。
2021年「丑年」は十二支の2番目で、「子年」に蒔いた種が芽を出して成長する時期とされ、先を急がず、目の前の事を着実に
進める事が将来の成功に繋がると言われています。
皆で力を合わせてコロナを克服し、希望に満ちた年となるよう編集局一同お祈り申し上げます。
最後となりますが、発行にご協力頂いた関係者の皆さまには、厚く御礼申し上げます。

働きがい推進事務局

